

転調 中部ドイツ

ほとんど単調なだけの、なだらかな平原はどこまで行っても
ただ、ゆるやかに起伏するだけの畑、畑、また畑
そんな中にぼつりと立っている老木は長い間
素朴な農民達の土臭い生活のなだらかな起伏を見つめ続ける
ここでは少し小高いところから見渡すと遠くまで見渡せるのです

欠伸の出そうな退屈な風景
間延びした全音符がずらり連なり
やたら分厚いオーケストレーションが
だらだらと果てしなく続く
クレッシェンドも眠気の中に埋もれる

消え入りそうな意識の中で
僕は寝転んでいた
広々とした野原に
ここで消えてゆく
消えてゆく

これが生活というものか…

老木が見下ろしている
どこまでも同じ平原
ほんの少しの風

そうか、これが生活というものか

向こうに見えるのは…
かすむように見える姿は…
こっちへ歩いて来るのは――

僕はここに居る
ここが見えるね
さあ、ここへ

(1984.3.31)